

SONY

ソニーが（工場で）、はじめた未来。

Kohda TEC, Sony EMCS Corporation | fact 05
Aichi, Japan



For the Next Generation
地球の未来を、グリーンに。ソニーのエコロジー

「工場に緑を増やしたい」という社員の思いが、 約30年かけて地域に愛される森をつくりました。

公園工場をめざして、1972年から緑化活動をスタート

ここはソニーの最新のデジタルビデオカメラ「ハンディカム」などが生み出される工場の一隅。多くの緑に囲まれ、工場とは思えないほどの深い森。この森には、30年以上にもおよぶ、ソニー社員の熱い思いが詰まっています。1972年に設立した愛知県にある幸田の工場は、日本では珍しかった「緑豊かな公園工場（インダストリアル・パーク）」をめざして、当時から緑化活動に取り組んできました。開発で造成された土地に緑を増やすために、まず社員が自らの手で木を植えはじめました。木は成長し、緑は増えていきましたが、それだけでは美しい森には育ちません。社員たちは緑化同好会を発足。業務のかたわら緑化学習会を開催して知識を高め、自らの手で森を保全し、緑の質を高めてきました。年月を重ねるほどに鳥や虫たちが集う、豊かな生態系が育まれるまでに森は成長をとげました。



1972年設立当時の幸田テック

緑豊かな森に囲まれた現在の幸田テック

「ソニーの森」は、地域に愛される公園になりました

森が豊かな表情を取り戻すにつれ、ソニー社員の間にもさらに大きな夢が生まれたのです。「この森を、地域に開放することができないだろうか…。それから5年の歳月をかけて、遊歩道を整備し、遊具を設置し、展望台をつくりました。完成した「ソニーの森」は、いまでは小学校の野外学習にも利用されています。これらの活動が評価され、2000年には緑化推進運動功労者表彰「内閣総理大臣賞」を受賞、さらに2005年には社会・環境貢献緑地評価システム（SEGES）の最高位にあたる「Excellent Stage 3」を獲得しました。こうした思想は他の工場にも受け継がれ、ソニーセミコンダクタ九州（株）の大分の工場では、公道に面した立地を活かして常時開放型の「ソニー 潮の香公園」をオープン。この4月には幸田の工場に続き、「内閣総理大臣賞」を受賞しました。豊かな緑を、次の世代のために。ソニーのつくる未来が、はじまっています。



「ソニーの森」で見られる昆虫・動物・野鳥・植物の看板

*「ハンディカム」はソニー株式会社の登録商標です。

www.sony.co.jp/eco